

第6回 自然探求サポート事業 研究テーマ決定! 野外調査スタート!

●応募いただいた「疑問」(研究テーマ)

「どんな微生物によって植物は分解されるのか?
土にかえるとはどういうことか?」

探求者: 男子 2 名、中学 2 年、白石区在住

サポート研究者: 山本佳奈さん(北海道大学環境科学院修士課程)

「木はどのくらい大きくなれるのか?」

探求者: 女子 1 名、小学 4 年、中央区在住

サポート研究者: 山崎真実(当センター学芸員)

写真: 自宅近くの円山
で巨木調査をしました。



小さな生きもの、大事な宝もの ～札幌産カタツムリの飼育&観察日記～

Note. 2

夏

カタツムリのかくれんぼ

私はたびたび、自然の中のカタツムリに会いに、大きな公園や林に立ち寄ります。カタツムリ好きの輪が広がっているのか、サッポロマイマイなどの目撃情報も寄せられます。それをもとに、南区の芸術の森や厚別区の野幌森林公園でカタツムリ探索をしてきました。晴れている日は、残念ながら動き回っているカタツムリには出会えませんが、殻に入って眠ったようにじっとしているサッポロマイマイ、エゾマイマイなどを何匹か見つけることができました。➤

一転して、雨の日となると…ササの葉の上を行き来する、無数のオカモノアラガイ。落ち葉におおわれた地面を這い回るヒメマイマイ。サッポロマイマイは木の幹や葉など比較的高いところ、エゾマイマイはフキやササの葉といった低い場所にいます。種類によって、普段いる場所には好みがあるようです。サッポロマイマイの殻は目立ちそうな渦巻き模様ですが、ハルニレやサワグルミ、イタヤカエデといった木の幹にいと、おもしろいほどよく環境に溶け込んでいます(写真)。✓

どこ?



これは
難しい?!

答え: 次ページ

さて、札幌に生息するカタツムリには、エゾマイマイ、サッポロマイマイ、ヒメマイマイなどがいますが、実は、みんな近縁の種類というわけではありません。北方系のエゾマイマイ、ヒメマイマイ、南方系のサッポロマイマイと南北別々の方向から北海道へ分布を広げてきたのです。氷河期に現在の海峡が陸地となってつながった時代に、北海道

へやってきたと考えられています。

こんなにゆっくりとしか進めない生き物が、よくそんな大移動をやったのけたなあと感心していたら、「氷河期は少なくとも数万年は続いていたからね…」と古沢学芸員。カタツムリの分布には、壮大な物語が隠されているようです。(相馬)

[参考文献]

○ 湊 宏(1980)日本の陸産貝類の分布系統『動物と自然』10(13)

○ 栗原 康裕・片倉 晴雄(1993)北海道陸産貝類相(2)『北海道の自然と生物 8』

9月~10月の行事お知らせ

体験学習会 ①

海岸を歩いて、見つけて、考えよう！～漂着物観察と化石発掘体験

〆切 9/17(水) 必着

海の環境を知る手がかりとなる漂着物集め(ビーチコーミング)と、過去の海の環境を教えてくれる化石を採取します。

日時 9月28日(日) 9時～16時

場所 石狩市厚田区望来海岸 ※集合：札幌市博物館活動センター。貸切バスで移動。

対象 小学4年～一般 (小学生は保護者同伴) **定員** 30人 **費用** 無料

体験学習会 ②

落ち葉のたたき染め～秋の植物観察会

〆切 10/1(水) 必着

紅葉を観察した後、室内で簡単な染物をして、しおりを作ります。

日時 10月11日(土) 10時～12時 (雨天中止)

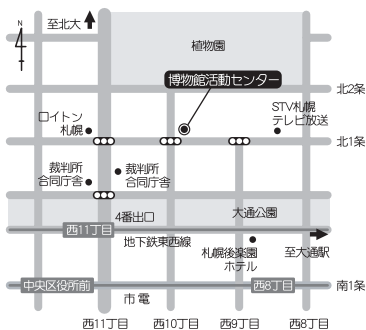
場所 中央区大通公園、博物館活動センター実習室 ※現地集合。

対象 小学生～一般 (小学生は保護者同伴) **定員** 20人 **費用** 無料

①～② 申込方法

ハガキ、FAXに**行事名、住所、参加希望者全員の氏名(フルネーム)、年齢(学年)、電話番号**をご記入の上、博物館活動センター(下記)まで。**多数時抽選**。(保護者同伴の場合は保護者名も明記してください。個人情報 は厳重に保管し、行事終了後直ちに破棄しております。)

カタツムリ探しの答え



札幌市博物館活動センターご利用案内

【開館時間】 10:00～17:00 【入館料】 無料 【休館日】 日・月曜日、祝日、年末年始

【住所】 〒060-0001 札幌市中央区北1西9リネージュプラザ5F

【電話】 011-200-5002 【FAX】 011-200-5003 【Eメール】 museum@city.sapporo.jp

● 駐車場はありません。公共交通機関でおこしください。

〈地下鉄〉 東西線西11丁目駅4番出口から徒歩5分

〈市電〉 西8丁目または中央区役所前電停下車徒歩8分

〈バス〉 北1条西7丁目バス停降車徒歩3分

編集後記

来館者数 **57,096**人 (2008年7月末現在)

うれしいことがありました。東京に引っ越した女の子が、夏のある日、突然、博物館に現れたのです。数年前、放課後によく博物館に遊びに来ていた頃は小学生でしたが、もう中学生。転勤族も多い札幌ですが、こんな風に博物館が接点になって再会できることもあるんですね。学芸員にとって最高の「夏の贈りもの」でした。(ま)

